

【特別企画】 受験生のための筑波大学説明会（平成 27 年 8 月 2 日）

「実施プログラムと内容」

時 刻	実施内容
9:00	参加受付開始 -大学紹介ビデオ、Imagine the Future-
10:00	学類長挨拶 (二宮治彦 学類長)
10:10	カリキュラムについて (正田純一 教授)
10:30	国際医療科学主専攻について (森川一也 教授)
10:40	進路・進学について (山内一由 准教授)
10:55	入学試験について (小池 朗 教授)
11:10	質疑応答
11:30	模擬講義 (福田 綾 准教授)
12:30	昼 食 -大学紹介ビデオ上映、研究室紹介スライドの公開-
13:30	在学生シンポジウム (15分×4名) ・志村友梨 (医療科学類 4年生) ・米澤寿弥 (医療科学類 4年生) ・小森大輔 (修士課程) ・奥村元紀 (修士課程)
	質疑応答
14:30	実習室・講義室ツアー (併行して) 受験・学生生活相談と懇談会
16:30	大学説明会日程終了

① 参加者受付開始

当日は大変な猛暑にもかかわらず、大勢の方にお集まりいただくことができました。



(会場入口)

講義室出入り口付近には「シラバス・過去問題等閲覧コーナー」を設け、受験生が手に取ってシラバスや過去問題を閲覧できるようにしました。



(シラバス・過去問題等閲覧コーナー)

② 説明会（教員より）

開会にあたり、二宮学類長より挨拶をいただき、カリキュラムについて正田先生、国際医療科学主専攻について森川先生、進路・進学について山内先生、入学試験について小池先生より説明がありました。



(教員による説明)



(説明会風景)

③ 模擬講義

今年度も、実際の授業を体験できる模擬講義が実施されました。今回は、福田先生に「脂質と代謝」というテーマで講義をしていただきました。



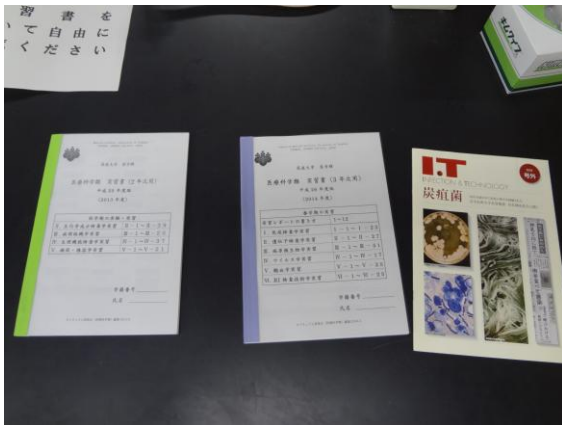
(模擬講義)

④ 在学生シンポジウム

午後からは、医療科学類の在学生および卒業後多方面で活躍する卒業生によるシンポジウムを行いました。詳細については、下記の「在学生・卒業生によるシンポジウム」をご覧ください。

⑤ 実習室・講義室ツアー

在学生シンポジウム終了後、希望者を募り医療科学類の実習室・講義室ツアーを実施しました。実習室ツアーでは過去の実習書を配布し、実際の実習がどのように行われているかを説明しました。



(配布資料)



(研究室ツアー)

⑥ 受験・学生生活相談と懇談会

実習室・研究室ツアーと並行し、受験生のための試験や学生生活の相談コーナーを設置しました。相談員として、医療科学類教員、在学生、卒業生がそれぞれブースに常駐して対応しました。相談コーナーには受験生だけでなく保護者の方も多数のご参加いただきました。



(教員による相談コーナー)



(在学生・卒業生による相談コーナー)

「在学生・卒業生によるシンポジウム」

1. 志村友梨（4年次在学）



（講演要旨）

私が筑波大学医学群医療科学類を選んだ理由について、まずは述べたいと思います。高校生の頃から医学に興味があり、医療従事者として医療の現場で働いてみたいという思いがありました。そして実家から近い筑波大学には、オープンキャンパスで来たり、個人的に後日一人循環バスで筑波キャンパスを一周したりして、この広くて緑の多いキャンパスがとても魅力的だと思いました。高校3年の冬、宮崎県のとある村に住んでいた祖母が、末期の胆のうがんで他界しました。胆のうがんは早期発見の難しいがんの一つです。祖母もからだに異変が起きてから何度か検査を受け、末期がんであることがわかりました。高校生の私は、「もっと早くがんを発見できる検査はないのか?」、「その検査方法を見つけ出すことはできないのか?」と強く思いました。そして、臨床検査技師として患者さんの病気の早期発見に繋がる仕事がしたい、医療を学びたいという強い気持ちから、筑波大学の医療科学類を選びました。

では、医療科学類とはいったいどんな学類なの

でしょうか。勉強と学生の二つに分けて、紹介したいと思います。まず、勉強面からです。医療科学類の最大の特徴は、医学・医療の知識を広く深く身につけられるところです。ただ検査技師になるための勉強をするのではなく、生物や物理などの基礎知識をしっかりと学べるため、「なぜこの検査項目ではこの値が増加するのか?このひとのからだでは今なにが起きているのか?」ということの理由も深くまで理解することができます。また、病院実習期間が長いということも特徴の一つだと思います。大学3年の12月から約4か月間、筑波大学附属病院ですべての検査室で充実した実習を行えます。また、研究がしたい方ももちろんしっかり研究できます。約半年間の卒業研究でも、自分でテーマを決め、どのように進めれば良い結果が出るかを自ら考え、結果を出す喜びを味わうことができます。筑波大学ではさまざまな研究が行われているため、研究室を迷ってしまうほどかもしれません。これらのことから、医療科学類では臨床検査技師だけでなく、研究者としての将来の選択肢もあります。ただ、4年間を通して、医療科学類の勉強はハードスケジュールなこともあり、少し大変かもしれません……。しかし、仲間と一緒に勉強したり、たまに息抜きをして遊びに行ったり、そうして乗り越えていくと、喜びもたくさん、充実感もたっぷりです。次に、学生面から医療科学類の紹介をします。医療科学類は1学年約35人というアットホームな雰囲気です。そのため、学年を問わず仲良くなれます。沖縄から北海道まで、さまざまな出身地の友人もできます。また、

医学、看護、医療科の学生が主に活動している医学系サークルに所属している者、医学も医学以外のすべての学群の学生も活動している全学系サークルに所属している者もいます。比率としては医学系サークルが多いですが、どの学生も医療科学類の勉強と上手く両立しています。また、1、2年生から研究室に入って研究している者、バイトを頑張っている者などいろんな生活を送っている学生がいます。

余談ですが、私は全学系の軽音サークルに所属しているため、ここで全学系サークルのいいところを述べたいと思います。全学系サークルでは、なによりも医学だけでなく、生物、人文、芸専、図書館などの学群・学類の友達がたくさんできる場所がいいところだと思います。もちろん、勉強と両立できますし、いろんな分野の友達と話したりすることで、さまざまな業界・世界を知ることができ、自分の価値観が広がります。これは、総合大学である筑波大学だからこそ得られる経験だと思います。

さて、先ほど医療科学類では将来の選択肢がたくさんあると述べました。臨床検査技師、研究者、企業に就職する学生もいます。そのなかで私は、卒業後は臨床検査技師として働くことを決めました。ここで、私が臨床検査技師を選んだ理由について述べます。もともとは、大学院に進むことも考えていた私ですが、大学3年の冬、附属病院のある日の実習で、患者さんとそのご家族の病気に対する思いを知り、検査技師の業務は、検査を受けるすべての人に対してとても責任があるということに改めて実感したことがありました。臨床実習は体力的・精神的にハードでしたが、そのこ

とをきっかけに毎日学ぶことばかりであることに気づき、病院での実習がとても充実するようになりました。また、なにかの分野のスペシャリストとして活躍している技師さんの姿を見て、私もすべての検査業務を身につけ、それからスペシャリストとして働きたいという思いが強くなりました。そしていま私は、その目標を実現するべく、病院就職のために活動しています。

最後に、医療科学類はこのように充実した学習・研究環境もあり、素敵な仲間もいます。医療の道を志すみなさん、ぜひ医療科学類で最高の4年間を過ごしませんか。

2. 米澤寿弥 (4年次在学)



(講演要旨)

現在、医療科学類国際医科学主専攻4年の米澤寿弥と申します。私は学業以外のことをメインにお話する予定ですが、その前に私が現在の学類・専攻に至る理由について説明します。私は高校時代から医学分野について興味があり、大学で医学分野を勉強し、研究ができればいいなと考えていました。また、筑波大学は研究が盛んな大学であり、都会が苦手な私には立地も良かったので、

筑波大学の医療科学類に進学しようと思いました。無事、入学したわけですが、入学後の説明会で重大な発表がありました。それは当時の医療科学類のパンフレットにはなかった新しいコースが設立されるという発表であり、そのコースこそが国際医療科学主専攻でした。もともと研究を大学でやりたかった私にはぴったりのコースで、このコースに進学したいと1年の頃から思い、3年のコース選択で国際医療科学主専攻に進学しました。

それでは本題ですが、まずは部活・サークルについてお話しします。筑波大学には部活動とサークル活動があるのですが、部活には2種類あります、全学の部活と医学の部活です。大きな違いは活動頻度と所属対象です。全学の部活動は皆さんが高校でやっていたような部活のイメージで、ほぼ毎日活動があります。また、全学の部活は筑波大学の全学類に所属資格があります。一方、医学の部活は活動頻度が週2~3で、所属資格は医学群（医学、看護、医療科学類）のみとなっています。医療科学類はこの医学の部活に所属する人が多いです。サークル活動は部活と比べると、比較的自由で、自分が行きたい時に行ったりできるので、複数のサークルを掛け持ちしたりする人も多くいます。

次にバイトについてですが、私の同期（医療科学類4年）にアンケートをとったところ、卒業研究でバイトを辞めた人がいたにもかかわらず、6割の人がバイトをやっていました。頻度は週2~3の人が多いですが、週1の人も何人かいました。職種は飲食が半分を占めていて、次に塾講師、家庭教師などが多いという結果になりました。医療科学類は筑波大学の中でもダントツで忙しいと言

われていますが、バイトは皆支障なくやっている印象です。

少しプライベートな話になりますが、趣味も大学では充実させています。勉強、部活、バイトと忙しい生活ではありますが、時間を作って、自分の趣味を楽しんでいます。私は写真を撮ることが大好きで、写真好きの友達と朝3時に集合して日の出を撮りに行ったりもします。他には、地元に戻ると中学時代の友達とフットサル大会に参加したりもします。

これまで、学業以外のことをお話ししましたが、少しだけ学業についてもお話しします。私は国際医療科学主専攻の在校生なので、研究についてお話しします。私は現在、国際統合睡眠医科学研究機構という研究グループで睡眠と覚醒の関係について研究をしています。内容としては、睡眠と覚醒を制御する神経の細かいメカニズムについて研究をしています。最近では神戸で行われた学会でポスター発表をしたりと、学業の面でも頑張っています。

最後に皆さんに。今紹介したように、筑波大学医学群医療科学類では勉強、部活（サークル）、バイト、趣味と全てを満喫・充実させることのできる学類です。そんな医療科学類で、皆さんも充実した4年間を過ごしてみませんか？

3. 小森大輔（筑波大学人間総合科学研究科フロンティア医学専攻在学）



（講演要旨）

私は今年に医療科学類を卒業し、大学院の修士課程であるフロンティア医科学専攻に進学しました。ここでは私が医療科学類3年次の時に新設された国際医療科学主専攻の魅力や卒業後の進路設計を中心に記載します。

国際医療科学主専攻は、医科学の専門知識を持ちながら国際的に活躍できる人材の養成を目的に設置されました。医療科学類のカリキュラムでは、3年次から医療科学主専攻と国際医療科学主専攻を選択することになっています。医療科学主専攻は臨床検査技師教育を目的に充実した臨床科目と臨床実習に加え、約半年の卒業研究が特徴となっています。一方、国際医療科学主専攻では英語論文を読んで発表する授業や英語で開設されている授業があり、語学力を養う機会が設けられています。また、3年次から卒業研究が始まり医療科学主専攻に比べ約1年卒業研究が長いことも特徴です。

私たちの代から国際医療科学主専攻が新設され、

どちらの専攻に進むか当初は非常に悩みました。私はあまり研究には興味が無かったのですが、臨床検査技師の国家資格も得られるということもあり自分の将来を考える上で選択肢がより広いと感じたため、国際医療科学主専攻に進みました。

実際、国際医療科学主専攻を選択して魅力的に感じたことは3つあります。まず一つ目は卒業研究が長いことです。これは、研究者志望の人にとっては大きな利点であると考えられますが、臨床検査技師など将来病院就職希望の人にとっても良いことだと思います。臨床検査技師の国家資格は大学でなく専門学校でも取得できますが、「研究室で研究をする」ということは大学でしかできません。とりわけ、筑波大学は研究をするための環境に恵まれており、そこで研究できるということは非常に有意義なことだと私は思います。医科学研究で用いられている手法は実際の検査に応用されています。臨床検査技師は臨床に関する知識さえ持っていればよいということではなくて、検査法の原理についても習熟することが必要です。私も研究室に長くいる分だけ、研究分野に関する最新の知見に加え、実験のテクニックや原理といった多くの知識を習得できる機会がありよかったと感じています。実際私は将来臨床検査技師として病院に就職しようと思っていますが、さらに深くいろいろな経験を積み知識を身につけるべく大学院に進学し、日々研究を行っています。2つ目は英語論文を読み発表するという授業を通して、英語論文に慣れることができるということです。英語論文と聞くと研究者が読むものと思われがちです。しかし、優れた研究成果は医療に応用されることで常に医学は進歩しており、医療従事者も常に新

しい知識を持たない限り、優れた医療を患者さんに提供できません。その最新の知見を知るには英語論文が欠かせません。つまり、英語論文を読むことは研究者・医療従事者問わず必須で、大学時代から論文に慣れる機会があるのはいいことだと思います。3 つ目はプレゼンテーション能力が養われることです。企業でも病院でも自分の行ったことを誰かに報告したり発表する機会はあると思います。国際医療科学主専攻では卒業研究が長いことと、英語論文を読んで発表する授業があり、発表する機会が多くあります。その中で「どうすれば人に分かりやすく説明できるか？」というプレゼンテーション能力が自然と養われると思います。

国際医療科学主専攻は、本来研究者志望あるいはグローバル企業に就職志望の人向けに設置されましたが、必ずしもそうではなく私の様に病院就職志望の人にとっても有意義に学べる専攻であると思います。どちらの専攻に進むかは入学後に考えればよいので、まずは医療科学類に入学し将来の夢への一步を踏み出しませんか。

4. 奥村元紀 (筑波大学人間総合科学研究科フロンティア医学専攻在学)



(講演要旨)

大学院修士 1 年の奥村元紀です。私の話は役に立つ人と立たない人に分かれると思いますので、軽い気持ちで聞いてください。

みなさんは大学生生活、医療科への受験を次のように考えているのではないかと思います。医療関係は就職安定しそうだな、何らかの形で医学に携わりたいな、国際医療科学なんかすごそう、臨床検査技師として病院で働きたい、研究一本で頑張るぞ、真面目に勉強するぞ！とか、つまり大学生生活は皆さんにとって学びの場であると考えていると思います。もちろんすべて正しいです。

しかし、学ぶためにはまず自分自身が健康でなくてはなりません。人が健康で文化的な最低限度の生活をするために必要なこととして 3 つの原則があります。それは、衣・食・住です。これが一番大事。そして、これが医療科の場合、一文字加わって衣・食・住・遊となります。つまり、遊びを取り入れないと医療科では健康に生活できないと考えてください。

ではまずつくば市という場所を知ってもらいましょう。西日本の方々、つくばは東京ではありません。私が大阪出身で、つくばは東京だと思っていました。つくばは東京の隣の隣にある茨城県にあって、筑波大学はつくば市の中心に大きくそびえ立ち、日本で第2位の敷地面積を有します。そう、筑波大学はでかいんです。東京ドーム55個分、ディズニーランド5個分に相当します。想像はできないですよ。つくばの位置関係についてお話ししました。筑波大学がでかいということだけ覚えてください。

つくばってやっぱり田舎なの？という質問に対しては、イエスです。しかし、田舎には田舎なりのいいところがあります。景色。春には美しい桜道の下でお花見をしたり、日本の何とか道何とか選にも選ばれている紅葉の道をドライブしたり季節の色をきれいにみるすることができます。また、毎日空がきれい。これはなぜかというと、空気がきれいだからです。空気がきれいだ子供も元気に育つもんです。どうでしょうか、空気のきれいな街で元気に成長しませんか。

次に茨城が世界に誇る筑波山についてです。登山道を歩くと、下を見ればきれいな流水、上をみれば紅葉が広がっており、そして頂上に着くと最高の景色を見ることができます。つくばに来れば自然の宝庫である筑波山にすぐのぼりに行けます。

つまり、自然とふれあい遊べと、外で元気に遊べと、そういうことなのかと、いいえ違います。大学の近くにはある娯楽施設があって、ビリヤード・卓球・カラオケ・ダーツなどを楽しむことができ、3時間1000円ですよ。安いですよ。医療科のテスト期間が終わったら、そこに遊びに行っ

て3時間遊んで、学校にもどってきてレポートをやるという風に息抜きには最適です。

田舎で生活に必要な買い物はできるのか。できます、あります。つくば駅前と研究学園に。Q'tクレスクエアでは、有名なレディースブランドやメンズブランドのショップで着る物を購入できます。食料は大型スーパーで買うことができます。生活雑貨にも困りませんし、100円ショップもあります。イースにも有名なブランドの店が入っていたり、何より僕たちのような貧乏大学生の味方Uクロさんが入っています。女の子が大好きな雑貨店もあります。電化製品に困ったらイースに行きましょう。食料は地元スーパーで安く野菜を買うことができます。たとえば、僕の実家大阪でレタスが298円の時、ここでは120円でした。

次の話が一番強調したい内容です。食についてです。食べ物はどうなのかと。美味しいもの、あります。ラーメン！つくばは実はラーメンの町なんです。私調べました。医学エリアから自転車10分で行ける範囲内に50件のラーメン屋があるみたいです。たとえば全国一位になったことがある煮干しラーメンの店や3位になったことがある味噌ラーメン、つけ麺の店など美味しいラーメン屋さんがたくさんあります。

また、学生の街ということでこのような爆盛メニューと呼ばれるものも数多くあります。

60cmのパフェや、ジャンボチキン定食、BIG丼が代表です。これらはメンズ向けですが、ちゃんと用意してあります。

レディース向け。おしゃれカフェ！カフェの街といっても過言ではないほど、おしゃれなカフェがつくばにはいっぱいあります。ワンプレートラン

ち、パスタ、ハンバーグ。ぜひ足を運んでみてもいいのではないのでしょうか。

そして、もう一つ保護者の方々も気になることのひとつとして、一人暮らしどんな感じなのか。家賃はどうか。という話です。とつぜんですが問題です。この家の家賃はいくらでしょうか。洋室 10 畳、キッチンも広い、脱衣所付きで、お風呂トイレ別、玄関オートロック、鉄筋コンクリート 4 階建のマンションです。参考として都会の渋谷では 11 万です。答えは 5 万円。安い。私の家です。つくばはとにかく安いです。また、学生寮もしっかりしたものがあって確か 2 万以内だったと思います。この浮いたお金で実家に帰って親孝行しましょう。

つくばの魅力盛りだくさんですが、でもやっぱり都会で遊びたいなって人へ、ご心配には及びません。つくばエクスプレスを使えばなんと！東京まで！あのあこがれの東京まで！45 分で行けちゃいます。どうでしょうか。ぜひつくばへ。

筑波医療科学 第 11 巻 第 3 号	
編集	筑波医療科学 編集委員会 二宮治彦 磯辺智範
発行所	筑波大学 医学群 医療科学類 〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
発行日	2015 年 8 月 31 日